

The Jumonji Press

新座だより

No. 33
2010.10

特集 ▶ 北京語言大学と十文字学園が 「友好校提携協定」に調印

▶ インターンシップ体験ストーリー

- 06 ▶ 新着トピックス 本学園創立者「こと先生」の教育力／ふるさと支援隊
- 08 ▶ 教育・研究最前線 齋藤麗子教授／海外研修レポート・鈴木弘貴准教授
- 10 ▶ 十文字ニュース 横須賀学長代行が学生総会で「新体制」を説明 etc.
- 13 ▶ 平成21年度 決算の概要 14 ▶ こちら編集部・第44回桐華祭情報
- 16 ▶ 学科トピックス 18 ▶ 公開講座&入試情報 20 ▶ スポットライト

中国北京语言大学与日本十文字学園女子大学 合作交流协议签字仪式



写真提供：北京語言大学



写真提供：北京語言大学



Spotlight on Campus

国際交流レポート

「すぐにでも日本に戻りたい」 カナダの留学生から感動のメール

本学は、カナダのブリティッシュ・コロンビア州にあるノーザンライツカレッジと交換留学生協定を結んでおり、5月8日(土)から8月3日(火)までの約3カ月間にわたりブリタニー・ヴァンデンファーヴェルさんを留学生として受け入れました。ブリタニーさんは、本学の卒業生・小山茜さん宅にホームステイしながら新座キャンパスに通学。京都・広島を観光地や富士山を訪れ、日本の文化や習慣に触れる貴重な体験をしました。

今回初めて日本語を学んだブリタニーさんと、ホストファミリーの小山さんから、それぞれ本学へ寄せられたメッセージを紹介します。



小山さんの家前で。すっかり日本の文化になじんだブリタニーさんはお母さんとも大の仲よし。



家族で広島へ旅行。宮島の厳島神社で、ブリタニーさんは日本の伝統美に感嘆の声を上げていたそう。

本当の妹のようなブリタニーに たくさんの「ありがとう」を

小山 茜さん(幼児教育学科2008年卒/台東区立田原幼稚園教諭)

ブリタニーは、私の本当の妹のようでした。彼女は日本語の覚えが早く、私たちとの会話はなんだか滑稽。母が「お茶はホット? コールド?」と聞けば、彼女が「熱いのがいい」と答え、私が「OK?」と確認すれば「大丈夫」と笑うのです。毎日の生活においても、ブリタニーのほうがよほど日本人らしく感じました。玄関で靴を脱げばきちんとそろえ、食事の前後にしっかりと手を合わせる。自分の生活をふり返ってしまいました。この3カ月間でいくつの「ありがとう」があったらこう考えると、手を使っても、足を使っても足りません。ブリタニーが小山家に来てくれたことに心から感謝しています。また、このような機会を与えてくださった大学の方々にも心より感謝いたします。ありがとうございました。

ブリタニーさんのメッセージ

みなさんはわたしにとでもしんせつで
れいぎたださい。
わたしの きぼうは すぐに にほんへ もどる
こと。
じゅうもんじの みなさん ありがとう。

新体制になった学生編集部、乞うご期待!

『新座だより』の誌面づくりは、私の大学生活のなかでとても大きな存在でした。取材を通して本学の学びや地域との連携などがよくわかり、視野がぐっと広がりました。

読者の皆さんには、自分とかかわりのある学科だけでなく、学内の多彩な講義や行事についてもっと知っていただきたい

と思います。そして、その案内役として、『新座だより』を多くの人に読んでいただけることを願っています。学生編集部には、号数を重ねるごとに誌面をパワーアップさせていってほしいと思います。何よりも、楽しんで誌面づくりに取り組んでください。

(前編集長・解説委員長：吉岡彰子)

「新座だより」新執行部



編集長
加藤優美



総合デスク 副編集長
上野志織

編集後記

『新座だより』学生編集部は、これまで学内外で活躍する学生やOG、先生方に取材し、その様子を文章や写真で伝えてきました。あまり知られていないゼミの活動、留学生との交流など、積極的な学生たちの姿を多くの人に伝えたい。伝えることの喜びを大切に、大学生の目

線で『新座だより』をつくってきました。これからも本誌を盛り上げ、また学園全体にもぎわせていきたいと思っています。33号も、多くの学生があらゆる方面で活躍しています。どうぞ、ご注目ください!

(加藤優美：編集長)

新座だより 第33号 2010年10月7日発行

発行人：岡本英之(企画室長)

編集長：加藤優美

監修：大西正行 編集事務：三野裕子

発行：十文字学園女子大学・十文字学園女子

大学短期大学部・十文字女子大附属幼稚園

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28

Tel. 048-477-0555 (代表)

*『新座だより』へのご意見・ご要望は、kikaku@jumonji-u.ac.jp まで。



中国北京语言大学と日本十文字学園女子大学
合作交流協議签字儀式

Friendship Agreement
with
Beijing Language
and
Culture University

北京語言大学と十文字学園が「友好校提携協定」に調印

十文字学園はこの春、北京語言大学との間で中国の大学とは初となる提携協定を結びました。学術・教育の各面にわたる相互交流を積極的に進め女性教育のグローバルな進展を目指すこの協定は、創立90周年の節目を間近に控える本学園にとって次なる飛躍を期す布石になるものと期待されています。

北京語言大学大会議室
写真提供：北京語言大学



- ① 調印する十文字理事長(右)と崔学長(左)。
- ② 友好を願ってモクレンを植樹。北京語言大学キャンパスにて。
- ③ 女性教育の充実など、今後の交流について抱負を述べる十文字理事長(中央)。
- ④ 交流の意義を述べる北京語言大学 崔学長(中央)。
- ⑤ 北京語言大学の日本語教師と意見交換。
- ⑥ 北京語言大学大会議室で。

写真提供：
北京語言大学(①②③④)

教職員交流を軸に学生交流を促進 アジアで拓く「女性教育」の新境地

語学系名門校との提携で 本学新体制に大きな弾み

十文字一夫理事長(学校法人十文字学園)を団長とする中国訪問団は、2010年4月26日(月)、中国の重点大学である北京語言大学(崔希亮学長)と学校法人十文字学園との友好校提携協定に調印した。協定は互恵平等の原則に基づく広範囲の有機的交流をうたっており、今後、教職員交流を軸に学生交流などの具体化を図る。

北京語言大学は、世界各国から約9000人の留学生を受け入れ、多数の外交官を輩出している語学系屈指の国立大学であり、本学園と中国の大学との提携は初めて。今回の調印は2011年度からの十文字学園女子大学改組による新体制スタート、そして本学園史を刻む2012年2月の創立90周年への序幕となった。

アジアの世紀に息づく 特色ある交流の実現を

北京語言大学の崔学長からは、十文字理事長に対して積極的かつ特色

のある相互交流に向けた基本姿勢が伝えられ、十文字理事長は、今回の調印を機に十文字学園女子大学・短期大学部・留学生別科はもとより、十文字中学・高校、附属幼稚園を見据えた一貫教育と、これを担う教職員交流・学生交流などを具体化させていく決意を表明した。

アジアの世紀とグローバル時代を展望した友好校協定締結は、本学園が創立以来築いてきたWomen's Studiesの視点による「女性教育」の新境地を開き、来年度から始まる十文字学園女子大学の新しい「人間生活学部(届出済)体制展開の重要な柱に位置づけられることとなった。

崔学長と十文字理事長 交流の前進誓い調印

調印式は、4月26日午前10時から北京市内の北京語言大学大会議室で行われた。北京語言大学側からは崔学長をはじめ、国際交流、人事、教務、学生、出国部等の幹部約10名が出席、さらに同大日本語科の学生10余名も同席した。十文字学園側は、十文字理事長、十文字佑子理事(附属幼稚園

友好関係の発展を祈り キャンパスで記念植樹

調印式に続き、北京語言大学キャンパス図書館近くの中庭で記念植樹が行われた。調印式に出席した北京語言大学日本語科の学生が、上品な黄色の花をつけた高さ約3メートルのモクレン(中国名・玉蘭)の木を取り囲むなか、十文字理事長、十文字佑子理事、横須賀学長代行と崔学長ら北京語言大学の幹部が丁寧にその根に土をかけ、モクレンの木の生長と相互交流の発展を祈った。

キャンパス内のメインロード中庭に植樹されたモクレンの前には、両校の永い友好を願う松の木が立てられ、十文字理事長は、「モクレンの木の生長をまた見に来るのが楽しみです」と、崔学長に感謝の意を表した。

北京語言大学

世界中の留学生が学ぶ 中国屈指の国際派大学

「外国留学生高等予備学校」として1962年に設立された北京語言大学は、中国語・中国文化の教育で国内外から高い評価を得ている国立大学。国家重点大学のひとつに数えられ、創立以来、176余りの国と地域から10万人におよぶ留学生を受け入れてきた。在学生2万7430人のうちのべ8871人を留学生が占め、39カ国・地域の210大学・教育機関と姉妹校提携を結ぶ。22の学部専攻を備え、文学や情報科学、金融学、会計学などの専門教育もさかん。(データは2009年9月現在)

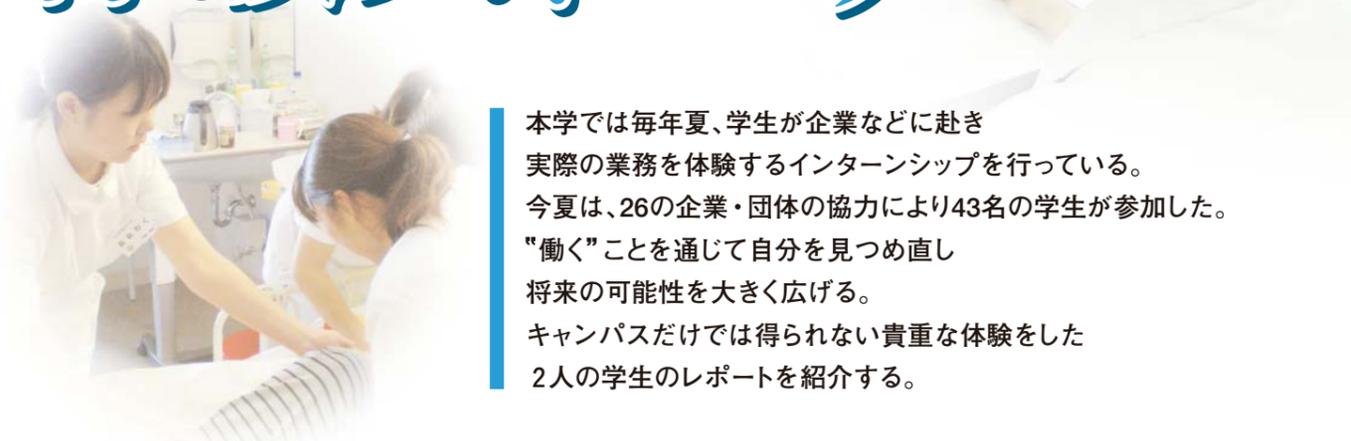


<http://www.blcu.edu.cn/BLCU.asp>



'10 Summer

インターンシップ 体験ストーリー



本学では毎年夏、学生が企業などに赴き実際の業務を体験するインターンシップを行っている。今夏は、26の企業・団体の協力により43名の学生が参加した。“働く”ことを通じて自分を見つめ直し将来の可能性を大きく広げる。キャンパスだけでは得られない貴重な体験をした2人の学生のレポートを紹介する。

応援メッセージが届きました

Encouragement

就職難を吹き飛ばす 学生の意欲に感動

今年も猛暑にもかかわらず、昨年よりインターンシップの希望者が増えました。就職難を吹き飛ばそうという皆さんの意欲を感じます。インターンシップに参加することで、企業の仕組みや社会的な役割を知ることができ、この経験は就職活動やこれからの学生生活にも大いに生かれます。また、日ごろはあまりなじみのない市役所や区役所などの行政の現場を体験できます。



副学長 募集・就職担当
社会情報学部部長
橋本ヒロ子教授

9月28日(火)にインターンシップ報告会を行い、参加した学生からは有意義で楽しい体験談を聞くことができました。みんなこの機会に何かをつかみ、大きく成長しています。来年は今年よりも多くの学生がインターンシップに参加し、その結果を就職活動をはじめ、人生のさまざまな場面で生かしてくれることを期待しています。

2010年度 インターンシップ先

- | | |
|--|---|
| 朝霞市役所
あさ出版
荒川区役所
オンワード樺山
ケイ・テクノ
健和会
コクヨマーケティング
ザ・ライトスタッフオフィス
埼玉県庁
埼玉新聞社
産業経済新聞社
燦クリーン
ジェー・シー・シー
志木市役所 | 藝科情報
東急アド・コミュニケーションズ
図書館流通センター
トップシーン
新座観光トラベル
新座子育てネットワーク
新座市役所
日本放送出版協会
丸正飯塚
よしツアー
リコージャパン
りそな銀行 |
|--|---|
- *五十音順

<参加人数>

■業界別

行政機関9名、出版・新聞・放送などのマスコミ関連10名、物販関連4名、情報関連3名、金融関連3名、図書館3名、その他の企業・団体11名

■学部・学科別

社会情報学科13名、コミュニケーション学科15名、人間発達心理学科13名、人間福祉学科1名、短期大学部1名

キャリアセンターより

学びの幅を広げる最高の機会

キャリアセンター長 本間 修

インターンシップの受け入れ先では、学生たちが将来のキャリアを考え、成長するよい機会を提供してくれます。ぜひ、一人でも多くの学生がインターンシップを通して、学びの幅を広げてほしいと思います。キャリアセンターは今後も前向きに学ぼうとする学生を応援していきます。

Note 2

出版 ● あさ出版

[東京・豊島区]

「人に出会いのきっかけを」 明確になった将来の目標

かとう ゆみ
加藤 優美

社会情報学部コミュニケーション学科3年



壁の本棚にびっしりと並ぶ書籍に囲まれながら、「伝えること」について深く考えた2週間だった。

自分はこれから何をしていきたいのだろう。出版社でのインターンシップでは、出版についてだけでなく、社会のしくみについても学べ、自分の将来を真剣に考えるいい機会となった。

インターンシップの内容は、読者の感想や意見が書かれた読者カードの入力作業や、出版される本の索引確認、書店で見本として置かれる本づくり、書籍に巻かれる帯付け作業、取次・書店への同行、企画について著者とのミーティングに同席するなど、さまざまな実務を体験するというものだった。

特に印象に残っているのは、書店回りの営業に同行したときのこと。ある書店員に、「出版社に入社したら、どんな本をつくりたいの？」と問われたが、私はすぐに答えることができなかった。

本とはどんなものなのか、人に何を伝えたいのか。思いがけない質問のおかげで自分と向き合うことができ、次第に「人と人が出会うきっかけ」をつくりたい」と強く思うようになった。たとえば、それが本という形ではなくても、「人と人が出会うこと」はとても大切だ」ということを伝えていきたい。

また、編集職の方には社会人としてのマナーについても教えていただいた。名刺交換の方法を学び、実際に挑戦したときは緊張した。

インターンシップは、ふだん話す機会がない人たちと出会い、視野が広がるチャンスだ。「自分に足りないものを教えてくれるのは他者である」ということ、そして周りへの感謝の気持ちを忘れずに、これから前進したいと思う。

Note 1

医療 ● 医療法人財団 健和会

みさと健和病院、訪問看護ステーション [埼玉・三郷市]
柳原病院、柳原リハビリテーション病院 [東京・足立区]

現場だからこそ実感できた 患者主体の看護

おおわく なみ
大和久 那未

人間生活学部人間発達心理学科3年



毎日行われるミーティングに参加。日々変化する患者さんの状態をきちんと把握する。

私は医療機関でのインターンシップに参加した。看護師について病棟を回ったり、入浴介助や清拭、手術や、バリウム検査を見学したり、往診や訪問看護に同行したりと、現場で生の看護を感じる貴重な体験の連続だった。

特に病棟でのカンファレンスでは、患者さん一人ひとりに真剣に向き合う看護師の姿に感動した。

また、毎日病棟を訪れる看護師は、患者さんがたとえ「大丈夫」と笑っても微妙な表情の変化を見逃さず、「非言語のシグナル」から本当に大丈夫なのかを素早く察知する。患者さんそれぞれの特徴をつかんだ看護が大切だと感じた。

「最期は自宅で迎えたい」と希望される患者さんには、在宅看護のサービスを受けられるように細かな調整をしたり、本人の望

みやご家族の意思を最大限に尊重できるような他機関と連携しながら、何度も話し合いを重ねたりする。看護の主体は患者さんにあり、「その人がその人らしく生きるため」にはどうしたらよいかについて考えることが基本である」ということを改めて実感した。

これまで「看護師は忙しく、時間に追われている」というイメージを持っていたが、今回訪れた病院ではベッドサイドに座って患者さんとじっくりと話している姿を見て、看護師という職業のイメージが少し変わった。10日間にわたってさまざまな場所での体験をさせていただいたことで、以前より深く看護の仕事について学べた気がする。

「現場だからこそ学べることがある」と実感したインターンシップだった。

十文字理事長が語る

「こと先生」の教育力

終戦記念日を前に「学部共通科目」で講演

昭和20年4月の東京空襲にも負けず復旧に力を尽くした本学園の創設者十文字こと先生の揺るぎない教育への情熱が学生たちの胸を打った。

空襲下に授業再開、校舎復旧

十文字一夫理事長は7月28日(水)・29日(木)の両日、学部共通科目「女性学基礎」「ジェンダー論」の講師として演壇に立った。祖母であり本学園創立者の十文字こと先生が目指した女性教育の原点を約700人の学生に語りかけ、昭和20年4月の空襲で巣鴨の校舎が焼けても、すぐに復旧させて授業を再開した「こエピソード」を披露。極限状況に置かれても、小さな体に不屈の行動力と先見性を宿し

講話要旨

「何もいらなから学校を」 学園をつくる前、ことは29歳で十文字大元と結婚した。大元は病氣と闘いながら会社を興すが、体を壊しているため大半の仕事はことが切り盛りした。18年におよぶ妻の労に報いるため「何かこ褒美をあげよう」と言う夫に、ことは「何もいらなから学校をつくってほしい」と打ち明ける。小学校に3年間しか通えなかった身の上から、祖母はどうしても学校をつくりたかったのだろう。その思いから大正11年に生まれたのが、本学の前身である文華高等女学校だ。ことが学んだ東京女子高等師範学校(現お茶の水女子大学)の卒業生と協力してつづけたが、最後はことが一身に経営を引き受けた。十文字高等女学校へと一新したのは昭和12年。半年におよぶヨーロッパとアメリカへの視察をもとに完成した、理想どおりの学校だった。

「不屈の精神と周到な対応」 そして、太平洋戦争へ。昭和20年4月14日の東京空襲で巣鴨の学校も家も会社も焼けた。心血を注いだものすべてを失ったショックは大きかったに違いないが、ことはすぐに母校の校舎を借りて授業を再開する。その一方、巣鴨の校舎をいち早く復旧させる手はずを整えた。実は空襲を受ける前から、最悪の事態を予測して対策を練っていたという。

とした人生観を植えつける」とこと。このポイントはぜひ胸に刻んでいただきたい。 同じような話は、私の母であり短期大学の創立者である2代目理事長、十文字良子からも聞かされた。良子が常に口にした言葉は「学問と引き換えに、女性の美しさを失わないでほしい」だった。みなさんにもぜひそうあってほしいと思う。 そして、自分の意志や意見をはっきりと表してください。先生の言うことは本当か、別の解釈もあるのではないかと、学びながら自分で問いかけていくのが大学ですから。就職活動にしても、小手先の技術では道は開けない。まず自分を磨き、充実させることを積み上げて、どんな生き方をするか、どんな仕事かしたいかを考えてほしい。



十文字学園創立者の十文字こと先生。

「朝日新聞」2010年7月20日付「Voice 戦争」語りつぐ戦争」に掲載された本学園OG西村清子さんの「声」。

空襲下に勇気ある補習授業 無職 西村 清子 う手紙が届きました。41年入学の私は軍需工場で働くことが多く、3年以上高等女学校から専門学校への進学が決まりました。しかし、空襲でその校舎も焼けてしまった。食料不足で弁当を持参できなかったため、自宅待機のまま希望のない日々を送っていました。すると月末、卒業した母校から「補習をする」とい

本学のゼミも活躍

山間部を元気にする「ふるさと支援隊」

「歴史の語り部」と「社会福祉」で奮闘中

過疎・高齢化に悩む中山間部を学生の力で活性化する埼玉県の農林部事業「ふるさと支援隊」に、本学の狩野浩二ゼミと新井幸恵ゼミが選ばれた。

★ふるさと支援隊 大学生の新しい視点や行動力、専門技術・知識を生かし、高齢化や過疎化が進む中山間地域の集落を活性化させる事業。

狩野ゼミ●小川町腰越 お年寄りから聞いた歴史を伝承

狩野ゼミの学生たち8人が支援する地域は小川町腰越山間地域だ。腰越のお年寄りから、長年培ってきた山村の歴史や暮らしの知恵を伝えてもらい、学生たちのみずみずしい感性で「地域のよさ」を発見し、将来を担う子どもたちに伝えていくことが活動のねらい。

具体的には、「語り部マップ」をこしらえたり、地元の小生向けに地域の歴史が学べる紙芝居を作ったりと、「子どもの目線」を重視した児童幼児教育学科ならではの企画が盛り込まれている。ゼミ生の一人、篠田果穂さんは次のように語る。

「腰越地区に足を運んでみたら、想像以上に豊かな生活がありました。機織り(はたおり)は、電気がない時代に水力を利用して機械を動かしたそう。家の新築には、山から木を切り出し、半年間乾燥させて使ったといいます。地



腰越で機織りを続ける島野さん宅を訪問。いつもたくさんのご馳走をいただきながら、楽しい会話が弾む。

域の協力で暮らしが成り立っていた腰越の魅力を、これからさらに見つけていこう

(取材・文：三浦秀佳記者)

新井ゼミ●秩父市吉田太田部 過疎集落の価値に目を向けて

新井ゼミの活動目標は、過疎地に暮らす人々との交流を通じて社会福祉のあり方を探ること。新井ゼミのメンバーと、本学の「ニコニコ農園(同好会)」に参加する学生は、3年前からともに秩父市吉田太田部に足を運んできた。「ふるさと支援隊」への参加はその蓄積の上であり、現実の社会福祉について学びを深めるよい機会となった。

この活動を通して学生たちは、過疎地域とは、人口減少や高齢化、産業の衰退、耕作放棄地の増大といった「問題」ばかりでなく、わが国が失おうとしている共同体的資産の「ありか」でもあるという点に気づかされてきた。

あらゆる物事が激しく変化する現代においても、山間地域という歴史的・地勢的特徴の中で育まれた「もの」「こと」「ひと」の価値が、人々の暮らしや心の中に、まさに命がけで継承されようとしている。ここに魅力を感じ



一人暮らしを続ける集落の最高齢者、古指宣一さん(94歳)の畑を見学。山間傾斜地を耕すご苦労に耳を傾けた。

た学生たちは、「厳しい環境にありながらも、近代都市が失ってきたものを村に見出すことができた」と語る。 高齢者の想いは、厳しくも深く豊かな。太田部集落では、こうした生活文化をはじめとする「内在的な資産」に触れる豊かな学びを体験している。感じ、歩き、考え、傾聴し、記録することを通じ、学生たちが過疎集落への関心やまなざしを持続する契機になればと願う。

(文：新井幸恵准教授)

この先生に会いたい

齋藤麗子教授

人間生活学部児童幼児教育学科

禁煙活動の経験を生かし 学生に伝える「母親の心構え」



女性に必須の知識を 実践的な授業で伝授

小児科専門医(医学博士)の顔、行政の立場で都内6区2市の保健所業務を推進する顔、そして「子どもをタバコの害から守る合同委員会」委員として禁煙活動に奔走する顔――。3つの顔で築き上げたキャリアを背に、この春から児童幼児教育学科で教鞭を執るのが齋藤麗子教授だ。

児童公園の灰皿撤去 定着させた禁煙宴会

齋藤教授のライフワークといえるのが禁煙活動だ。葛飾区保健所長時代には児童公園の灰皿を撤去。自身が参加する宴会でも周囲に禁煙を促し続けてきた。「宴会では、たばこを吸わない私が煙たがられていましたね(笑)」

鋭く迫る 喫煙と虐待の関係

齋藤教授は4年前、読売新聞への寄稿で、乳幼児と一緒に電車やレストランの喫煙席で過ごす喫煙者の親に鋭く迫った。「これは乳幼児への虐待のひとつではないか」「虐待」という言葉への反響は大きく、交通機関の受動喫煙対策に一石を投じた。



家庭で実践できる3歳児の視力検査の実習。

Voice from Abroad 海外研修レポート

CNN、BBCなど、国境を越える ジャーナリズムの現状を解明

2010年4月から海外の主要メディア5局を回り、グローバルジャーナリズムの比較研究を進めている社会情報学部の鈴木弘貴准教授。中東アジア・カタルから経過報告が届いた。

取材で見えた 局の編集方針

私は現在、海外でグローバルジャーナリズムの実地調査と比較研究を試みている。今回の海外研修は、ヨーロッパやアジアなど世界の広い範囲を対象にニュースを提供している海外テレビメディアを訪問し、どのような判断基準でニュースを選び、ストーリーをつくらせているのか、そのプロセスを明らかにするのが目的だ。

7月にはカタルのドーハに拠点を置く「アルジャジーライングリッシュ」(AJE)のニュース担当上級プロデューサーを訪問し、さまざまな疑問をぶつけた。中でも「アフリカ同盟の会議について、BBCワールドニュースやCNNインターナショナルでは取り上げていないのに、AJEで大きく取り上げた理由は何か」という私の問いに対し、「ほかのメディアが今までカバーしてこなかった地域の情報を、積極的

編集会議にも 異例の参加

8月上旬の時点で、「ユーロニュース」(フランス)、「BBCワールドニュース」(イギリス)、「アルジャジーライングリッシュ」(カタル)の3局で調査が終了し、あとは「チャンネルニュースアジア」(シンガポール)と「CNNインターナショナル」(アメリカ)を残すのみとなった。

すでに訪問した3局では編集会議にも参加することができた。編集会議に社外の人間が参加することはどの局でも極めて異例。そこにたどり着くまでには、研修準備に費やした5年以上の歳月があったため、非常に感慨深い経験である。

張感があった。

一方、ユーロニュースでは、局の規模が小さいこともあり、編集局長の部屋に各セクションの幹部クラスが集まり、立ったまま会議が進む。興味深いのは、英語で議論が始まったと思えば、途中から急にフランス語に切り替わるといった、多言語放送局ならではの風景が見られる点だ。

AJEの会議室は、3局の中では最も広く、白い革張りのシートとマホガニーの大テーブルが設置されている。AJEの編集会議はこの豪華な部屋の中で行われ、自由闊達な議論が飛び交う。

今回の研修で得た知見・体験を今後の研究、そして世界のグローバル化の動きに関心を持つ学生の教育に生かしていきたいと思っている。

(2010年8月末寄稿)

Profile すすき・ひろたか◎社会情報学部コミュニケーション学科准教授。一橋大学社会学部卒業。時事通信社を経て、コロンビア大学国際関係大学院修士課程修了、東京大学人文社会学系研究科社会文化研究専攻後期博士課程単位取得満期退学。 [研究分野] グローバルジャーナリズムの可能性、東アジアの国境を越えるマスコミュニケーションと社会変動 など [担当科目] 国際マスコミュニケーション論、グローバルジャーナリズム など



「アルジャジーライングリッシュ」の本社前で。

「アルジャジーライングリッシュ」のドーハ放送スタジオにて、ニュース担当上級プロデューサーRamsey Zarifeh氏と。

横須賀学長代行が学生総会で「新体制」を説明

5月14日(金)に行われた学生総会で、2011年度からスタートする新教育体制について横須賀学長代行(教育体制改革推進本部長)が説明した。

人間生活学部を核とした教育体制改革の目的について、「日本の少子化にともない大学進学者が減少するなか、十文字学園女子大学・短期大学の学び方を学生の立場から見直しました。これまでは学科やコースごとに多岐にわたる教育をしてきましたが、今後は大学全体の英知を結集させる教育をしていきたい」と語った。

具体的には、4年制大学の2学部6学科体制が、人間生活学部1学部7学科体制へと改組。大学で学ぶスキルを習得する入門



横須賀学長代行の話に、学生たちは真剣な表情で耳を傾けていた。

人間生活学部	入学定員
幼児教育学科	150名
児童教育学科	50名
人間発達心理学科	100名
食物栄養学科	120名
人間福祉学科 (社会福祉コース/介護福祉コース)	60名
生活情報学科	100名
メディアコミュニケーション学科	100名
短期大学部	入学定員
文学科	
国語国文専攻	70名
英語英文専攻	70名

ゼミナールを導入し、別の学科の学生が同じゼミに参加できるようにする。ほかにも、高校卒業までに習った苦手教科を克服する「学力保障教育(リメディアル教育)」や、ITスキルを身につける「情報処理基礎」など、現代社会を生きぬく力を伸ばすカリキュラムを充実させる。

また、新たに中学・高等学校教諭一種免許状(保健・家庭)や特別支援学校教諭一種免許状も取得できるようにする。一部の授業や資格については現学生でも受講できるよう検討しているという説明もあった。学びの幅のみならず、進路や就職など、将来の可能性がぐっと広がるだろう。

(取材・文：赤尾香澄記者、天羽洋子記者、黒津友里記者 写真：上柿茜記者)

本学で日本ポリフェノール学会を開催

寺尾純二教授をはじめ学界の権威が講演

日本ポリフェノール学会(会長・板倉弘重/独立行政法人国立健康・栄養研究所名誉所員)主催による第4回ポリフェノール研究会(会頭・志村二三夫/本学教授)が、8月6日(金)に本学で開催された。

日本ポリフェノール学会は、健康の維持・促進への活用が期待されているポリフェノールについて、研究の深化や拡張、安全性・有効性の知見を集積すること、また、消費者などへ成果を啓蒙・普及することを目的に、さまざまな活動を行っている。

4回目を迎える今回の研究会は、「ポリフェノールを科学する。分子レベルから人間丸ごと、レギュラトリー・サイエンスまでを

めざして」という学会の理念を表した標語を作成。ポリフェノールとは何かという原点に立ち返り、基礎研究の進捗と成果、ポリフェノールの安心・安全な利用法などについて最新情報の提供・意見交換をめざした。徳島大学大学院の寺尾純二教授や、国立健康・栄養研究所情報センター長の梅垣敬三氏、本学の井手隆教授、東京大学大学院の佐藤隆一郎教授(次回会頭)ら、ポリフェノール研究の権威・専門家が特別講演と一般講演を行った。

学外から68名、学内から47名が参加し、活発な質疑応答が飛びかう内容の濃い研究会となった。

3年目の小・中学校教員を対象とした研修会

若手教員の飛躍に児童教育専攻が協力

7月29日(木)・30日(金)の2日にわたり、本学で新座市教育委員会の「新座市3年経験者教員研修会」が実施された。この研修会は新座市内の小・中学校教員で3年目を迎える若手教員に対するもので、本年度は27名男性16名/女性11名が参加した。

講師を務めたのは新座市教育長の金子廣志氏、本学の横須賀学長代行、児童教育専攻などの教授陣。研修生からは、「これまでの自分の授業を振り返り、新たな工夫のきっかけになった」との声も。それぞれが

研修の意義をかみしめ、学びの多い会となったようだ。

この研修会は新座市教育委員会から本学に協力要請があり、2008年度にスタート。昨年度より本格的な連携事業として、児童教育専攻を中心に協力している。(狩野浩二地域連携協力推進センター長)



七タティーパーティーで強まる留学生との絆

国境や学科・学年を超えた交流のはじまり

7月6日(火)、7号館1階のカフェテリアで、留学生の歓迎会を兼ねた七タティーパーティーが開かれ、七タにまつわるクイズ大会やビンゴゲームなどが行われた。

学友会代表委員会企画局の実行委員26人が企画した今回のパーティーには、留学生15人、日本人学生20人が参加。気軽に交流できるようと、立食形式で進められ、国籍や学科・学年の垣根を超えたいぎやかな時間が過ぎていった。

「今日の感動をきっかけに、これから本当の交流が始まる。意義のある学生生活を送ってほしい」と、大西正行留学生センター長。

また、学友会代表委員会企画局長の長谷舞さん(コミュニケーション学科3年)は、「留学生と日本人学生が交流しやすい空間づくりを提案し、準備段階から打ち合わせを重ねてきました。今日、参加者が楽しんでる姿を見て、泣いてしまいましたが、いい感動しました」と、主催者としての喜びを語った。

終了後は学生同士で早速メールアドレスを交換するなど、すでにそれぞれの交流が始まっているようだ。

(取材・文：小林夏美副編集長、今井友里子副編集長 写真：関根由貴解説委員)



免許状更新講習に575名が参加

昨年4月の教員免許更新制導入にともない、本学では8月5日(木)から8月12日(木)まで、昨年に続き免許状更新講習を実施した。埼玉県勤務者を中心に154名、1週間でのべ575名が受講。修了(履修)認定は、各講座終了後の試験結果をもとに行われる。

講習後のアンケートでは、受講者から「具体的な事例を挙げて講義が進められたのでとてもわかりやすかった」「この講習で学んだことを活用していきたい」などの感想をいただいた。

平成22年度学業成績優秀者

一年間の努力をたたえ、宮丸学長が46人を表彰



表彰状を手渡され、誇らしげな表情の学生たち。

◆社会情報学部◆	
社会情報学科	4年生 古庄 彩、茂呂静香
	3年生 小林 愛、志村桃香
	2年生 中山苑美、藤森未紀
コミュニケーション学科	4年生 黒田恵里、船橋杏理
	3年生 倉元秋帆、清水かおり
	2年生 齋藤未樹、竹下里穂
◆人間生活学部◆	
児童幼児教育学科 幼児教育専攻	4年生 太田友香、杉本あゆみ
	3年生 井上理紗子、高橋茉莉由
	2年生 深作里沙、澤田ゆい
児童幼児教育学科 児童教育専攻	4年生 野口真美子、野島勝江
	3年生 増田里美、田名網志帆
	2年生 石田まなみ、紅林美帆
食物栄養学科	4年生 新井真由美、渡部洋子
	3年生 深井綾子、豊田 望
	2年生 坂本千秋、國松瑠子
人間福祉学科	4年生 小寺友子、岩迫美香
	3年生 澁谷めぐみ、日浦まどか
	2年生 和田香織、伊藤 唯
人間発達心理学科	4年生 橋本千明、佐藤舞華
	3年生 田澤庸子、花田百合香
	2年生 近藤春美、清水あさみ
◆短期大学部◆	
文学科国語国文専攻	2年生 岩田美穂子、宮田亜由美
文学科英語英文専攻	2年生 荒井由香、田澤明香里

志村副学長が埼玉県知事表彰

志村二三夫副学長・人間生活学部長は5月25日(火)、栄養士養成と栄養士の資質向上に尽力し、埼玉県民の食生活改善に寄与した功績が評価され、上田清司埼玉県知事から表彰された。



貸借対照表

平成22年3月31日 (単位: 円)

資産の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	有形固定資産			
	土地	4,784,224,899	4,784,224,899	0
	建物	7,985,640,564	8,059,127,642	△ 73,487,078
	構築物	280,873,883	262,743,724	18,130,159
	教具・校具	883,556,844	410,302,340	473,254,504
	備品	77,775,306	73,962,233	3,813,073
	図書	785,118,601	764,849,729	20,268,872
	車輛	6,301,966	3,982,208	2,319,758
	有形固定資産合計	14,803,492,063	14,359,192,775	444,299,288
	その他の固定資産			
	電話加入権	592,200	592,200	0
長期貸付金	22,188,500	16,695,000	5,493,500	
特定引当資産	279,958,999	279,921,877	37,122	
その他の資産	2,275,274	2,080,534	194,740	
その他の固定資産合計	305,014,973	299,289,611	5,725,362	
固定資産合計	15,108,507,036	14,658,482,386	450,024,650	
流動資産	現金預金	2,507,240,290	2,128,928,371	378,311,919
	未収入金	177,992,693	116,640,124	61,352,569
	前払金	1,712,333	5,762,804	△ 4,050,471
	仮払金	5,877,801	117,400	5,760,401
	流動資産合計	2,692,823,117	2,251,448,699	441,374,418
	資産の部合計	17,801,330,153	16,909,931,085	891,399,068

負債の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	長期借入金	1,085,942,000	1,070,300,000	15,642,000
	長期未払金	245,396,592	0	245,396,592
	退職給与引当金	1,000,054,294	967,798,548	32,255,746
	固定負債合計	2,331,392,886	2,038,098,548	293,294,338
流動負債	短期借入金	137,558,000	74,620,000	62,938,000
	未払金	338,169,455	192,878,065	145,291,390
	前受金	885,767,000	909,854,000	△ 24,087,000
	預り金	124,905,980	123,360,814	1,545,166
	修学旅行預り金	74,373,408	74,681,750	△ 308,342
	仮受金	50,707,605	44,777,160	5,930,445
	流動負債合計	1,611,481,448	1,420,171,789	191,309,659
負債の部合計	3,942,874,334	3,458,270,337	484,603,997	

基本金の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	第1号基本金	17,758,565,621	17,414,812,726	343,752,895
	第4号基本金	381,124,622	381,124,622	0
	基本金の部合計	18,139,690,243	17,795,937,348	343,752,895

消費収支差額の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	翌年度繰越消費支出超過額	4,281,234,424	4,344,276,600	△ 63,042,176
	消費収支差額の部合計	△ 4,281,234,424	△ 4,344,276,600	63,042,176

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部 及び消費収支差額の部合計	17,801,330,153	16,909,931,085	891,399,068

平成21年度

学校法人十文字学園

決算の概要

新入生の疑問に答える
「花よりGirlsTalk」

先輩の経験談で
学生生活が楽しみに

コミュニケーション学科では4月10日(土)、新入生の不安を解消することを目的に「花よりGirlsTalk」を開催。同学科の1年生十数人のグループに2年生から4年生までの学生が2名ずつ加わり、新入生一人ひとりの不安や疑問に答えた。続いて3・4年生が、それぞれの大学生活を語った。新入生は先輩の話聞き、これからの学生生活を思い描けたようだ。はじめは緊張していた様子の新入生も、最後には和らいだ表情を見せ、ためになった。「これからの大学生活が楽しみになった」という。

(取材・文: 吉村文葉解説副委員長
写真: 関根由貴解説委員)



若桐会だより

総会・懇親会、今年も華やかに

第一部「総会」

会員の皆様に
感謝の思いをこめて

6月6日(日)、第42回若桐会総会が本学で開催され、170名の会員が出席しました。

第一部の「総会」では、濱口恵子会長、宮丸凱史学長、青木康子委員長の挨拶に続き、平成21年度事業報告・会計報告、平成22年度事業計画案・予算案の審議が行われ、満場一致で可決承認されました。

本年度も継続した「卒業生の紹介による受験料優遇制度」では、2010年度入試で60件のご紹介をいただきました。ご紹介数は2002年の制度開始以来、年々増加しています。会員の皆様の温かいご協力に、心より厚く御礼申し上げます。

平成22年度

部会創立35周年記念行事の「案内」

※開催予定(実施済みを含む)

第二部「懇親会」

心温まる再会のひととき

増田吉史副学長の挨拶に続き、元食物栄養学科長の笹子謙治先生が乾杯のご発声。シャンパングラスが涼やかに響き合うなか会食へ。いつもながら料理も大変好評でした。恩師・旧知の友との楽しい懇談の後、第3回還暦を祝う会で満60歳を迎えた卒業

◎国語文芸部会

平成22年10月30日(土)
「江戸文化を味わおう」屋形船で落語を楽しむ

◎英語英文部会

平成22年6月27日(日)
ホテルオークラ東京
「第5回情報交換会」

◎家政・生活学部会

平成22年11月23日(火・祝) 11:00
ホテルニューオータニ
「魔法の布、ふるしき」の魅力」

◎食物栄養部会

平成23年2月13日(日) 12:00
如水会館 食物栄養学科共催
講演会「卒業生へのメッセージ」食べることもう一度考えてみませんか?」・懇親会

◎幼児教育部会

平成22年8月7日(土)
幼児教育研修会後援
「保育の基本」子どもの健康について考える

◎初等教育部会

平成22年8月29日(日) 12:00
十文字学園女子大学カフェテリア

生にお祝いの花束を贈呈。続いて、お知らせコーナーでは、宮城道子先生から「第2回わたしと建学理念作文コンクール」(女性と情報研究センター)応募のご案内がありました。また、当日は卒業生向けの人間福祉学科の編入学相談会も行われました。恒例のビンゴゲームでは、理事長、学長をはじめ多くの教職員から豪華なプレゼントが用意され、会場は沸き立ちました。今回30



家政科・幼児教育部第3回卒業生。



宮丸凱史学長のご挨拶。

「初教タイパーティ」
◎教養部会

平成22年10月31日(日)
「懇親会ハズアール」

◎社会情報部会・コミュニケーション部会

平成22年9月26日(日) 11:30~14:30
八芳園
「プロから学ぶ和食マナー作法と日本料理を堪能」

◎人間福祉部会

名簿の整理と管理、部会活動の体制整備と学科行事への協力など

◎人間発達心理部会

名簿の整理と管理、部会活動の体制整備と学科行事への協力など

人程参加していた子どもたちも大はしゃぎ。会場のカフェテリアから眺めるグラウンドの芝生は美しい緑の絨毯のように一面に広がり、やさしいそよ風が吹くなか、しばし団らんを楽しみ、和やかに閉会しました。総会などで会員の皆様からいただいた貴重なご感想やご意見は、今後の活動がますます充実するよう参考にさせていただきます。たいと考えております。

私たちがお届けします
十文字学園の「今」!

十文字学園女子大学の旬な情報をお届けするのは、新たに9名の学生を迎え、31名になった学生編集部。今年度も、持ち前の知性と体力を総動員して、キャンパス内外からたくさんの方の情報を届けたい。その根源となっている「愛読書」にもご注目ください。



4年生

吉岡彰子 / 解説委員長
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
松永ゼミ
愛読書 ●
「ほくは勉強ができない」
山田詠美

吉村文葉 / 解説副委員長
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
松永ゼミ
愛読書 ●
「ハリボテ」シリーズ
J・K・ローリング

新井唯香 / 解説委員
社会情報学部
社会学科4年
中尾ゼミ
愛読書 ●
「おいしいコーヒーのいれ方」
村山由佳

池田由佳 / 解説委員
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
角田ゼミ
愛読書 ●
「非属の才能」
山田瑠司

関根由貴 / 解説委員
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
佐藤ゼミ
愛読書 ●
「ピンチをチャンスに変える51の質問」 本田 健

代真規子 / 解説委員
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
向後ゼミ
愛読書 ●
「ゆるいカーブ」
加藤千恵

中根知美 / 解説委員
社会情報学部
コミュニケーション学科4年
角田ゼミ
愛読書 ●
「ライオンハート」
恩田 陸

野島勝江 / 解説委員
人間生活学部
児童幼児教育学科4年
黒瀬ゼミ
愛読書 ●
「徳川家康」
山岡荘八

三角香保里 / 解説委員
人間生活学部
児童幼児教育学科4年
清水ゼミ
愛読書 ●
「一年一組せんせいあのね」
鹿島和夫 / 灰谷健次郎

森平祐衣 / 解説委員
社会情報学部
社会学科4年
中尾ゼミ
愛読書 ●
「ぞうふうふうにできている」
さくらももこ

吉原梨恵 / 解説委員
社会情報学部
社会学科4年
泉ゼミ
愛読書 ●
「心霊探偵八雲」
神永 学

リュウ シュクエン / 解説委員
社会情報学部
社会学科4年
小野ゼミ
愛読書 ●
「旅に出たくなる地図」
帝国書院編集部

渡邊真希恵 / 解説委員
人間生活学部
児童幼児教育学科4年
流田ゼミ
愛読書 ●
「モモ」
ミヒヤエル・エンデ

3年生

加藤優美 / 編集長
社会情報学部
コミュニケーション学科3年
佐藤ゼミ
愛読書 ●
「かすみ草のおねえさん」
俵 万智

上野志織 / 総合デスク 副編集長
社会情報学部
コミュニケーション学科3年
亀田ゼミ
愛読書 ●
「これからの正義の話
をしよう：いまを生き延びるため
の哲学」 マイケル・サンデル

今井友里子 / 副編集長
人間生活学部
食物栄養学科3年
小谷ゼミ
愛読書 ●
「裏庭」
梨木香歩

小林いずみ / 副編集長
人間生活学部
食物栄養学科3年
志村ゼミ
愛読書 ●
「手紙屋：僕の就職
活動を変えた十通の手紙」
喜多川 泰

小林夏美 / 副編集長
人間生活学部
食物栄養学科3年
服部ゼミ
愛読書 ●
「もものかんづめ」
さくらももこ

中園千絵 / 副編集長
社会情報学部
コミュニケーション学科3年
小野ゼミ
愛読書 ●
「図書館戦争」
有川 浩

岡本ゆかり / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
角田クラス
愛読書 ●
「フギーポップは笑わない」
上遠野浩平

2年生

生島成美 / 記者
人間生活学部
児童幼児教育学科2年
井口・綾井クラス
愛読書 ●
「100回泣くこと」
中村 航

大野詩歩 / 記者
人間生活学部
児童幼児教育学科2年
井口・綾井クラス
愛読書 ●
「フリー：く無料」
からお金を生みだす新戦略」
クリス・アンダーソン

岡本ゆかり / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
角田クラス
愛読書 ●
「フギーポップは笑わない」
上遠野浩平

小糸千尋 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
亀田クラス
愛読書 ●
「ナラタージュ」
島本理生

佐々木亜耶可 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
松永クラス
愛読書 ●
「高瀬舟」
森 鷗外

松岡みどり / 記者
人間生活学部
児童幼児教育学科2年
増田・山本クラス
愛読書 ●
「八日目の蟬」
角田光代

水野 遥 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科2年
設楽クラス
愛読書 ●
「図書館戦争」
有川 浩

黒津友里 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
角田クラス
愛読書 ●
「もったいない主義」
小山薫堂

天羽洋子 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
佐藤クラス
愛読書 ●
「つきのふね」
森 絵都

上柿 茜 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
鳥村クラス
愛読書 ●
「砂漠」
伊坂幸太郎

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

赤尾香澄 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
佐藤クラス
愛読書 ●
「告白」
湊 かなえ

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

三浦秀佳 / 記者
社会情報学部
コミュニケーション学科1年
設楽クラス
愛読書 ●
「博士の愛した数式」
小川洋子

10/23・24
桐華祭の模様を
私たちが取材します!

今年で44回目を迎える桐華祭が10月23日(土)・24日(日)に開催される。当日は研究発表・展示、ダンス発表、模擬店を実施。2日目は、ハライチ、あめん、三浦春馬氏が出演するお笑いミニライブ&トークショーも開催される。学生はもちろんだ、老若男女を問わず、ファミリーでも楽しめる学園祭だ。ぜひお越しください。

◆イベント◆
【ダンス発表】23日(土)11時〜、無料、観覧自由
【お笑いミニライブ&トークショー】24日(日)13時30分開場、14時30分開演、チケットはチケットぴあにてお買い求めください(1200円、当日券なし)

◆問い合わせ先◆
【チケット】実行委員会イベント局・090-6530-1702(月〜土12時〜17時)
【学園祭】学生生活課・048-477-0557(内線2600〜2660)

※車での来場は「遠慮ください。」



昨年の第43回桐華祭の様子。

社会情報学部 デジタルテクノロジーコース ITスキルを磨き 充実した学生生活

私はプログラミングに興味があり、これまで情報に関する勉学に励んできた。情報関係の授業を積極的に履修し、ゼミでもJSP/サーバーレットを使った名簿管理システムを作成している。また、昨年Microsoft Certified Application Specialist (MCAS)の資格を、この春にはITパスポートを取得した。3年生である現在は就職活動を進めながら、基本情報技術者の資格取得を目指している。厳しい就職状況だが、しっかりと意思をもって乗り切りたい。

また、学園祭の委員会として桐華祭の準備活動にも参加している。来場者の方々に安全に楽しんでもいただけるよう、学園祭を盛り上げていきたいと思う。

(3年 志村桃香)

社会情報学部 ビジネス情報コース 就職活動のコツは 焦らず楽しむこと

厳しい就職戦線を勝ち抜いた4年生2人に、就職活動のポイントを聞いた。

茂呂静香さん(写真左)は大学で

学んだ会計の知識と情報技術を生かせる大手金融機関のシステム系企業に進む道を選んだ。

「就活は早めに始めて、できるだけたくさん面接を受けることが大切だと思います。また周りが決まっても焦らず、マイペースで」

第一志望だった大手生命保険会社の内定を勝ち取った志村真奈美さん(写真右)はさわやかな笑顔が印象的。

「何ことも時間に余裕を持ち、就活を楽しむ

気持ちが大

切だと思

ます。面接

では笑顔で

はきはきと

話すように

しました」

自ら選ん

だ道を進む

2人に心か

らエールを

送りたい。



コミュニケーション学部 マスメディアコース 生徒に思いをぶつけた 教育実習体験

マスメディアコースでは今年も英語教職の教育実習が行われた。4年生の大場由記子さんは5月24

日(月)から3週間、母子立松山中学校で教壇に立ち、教師の抱える困難や喜びの一端を体験してきた。

実習準備はしていたが、いざ現場に入ると十人十色である生徒との距離の取り方に戸惑う毎日。加えて、自分の教え方にも自信を失いそうになった。それでも1時間の授業はやり遂げなければならぬ。

「自分のできる範囲で精いっぱいやるしかない。そう思い定めると、悩みは吹っ切れた。持ち前の積極性をぶつけると、子どもたちは受け止めてくれた。自分の思いが彼らに伝わる喜び、さらに授業の構成から内容のすべてに自分の創意工夫が生かせる教育の面白さに気がついた。

教育実習の期間中、中学校の先生方からは「社会人、一教員として扱われ、強い責任感を感じる」とも人間として大きく成長することができた」と大場さんは語っている。

実習先68施設のうち、新座市立石神小学校や東京都立神経病院など16施設での実習について報告があった。参加した2年生からは「各施設の特徴や病院の状況を知らることができてよかった」との声が。また、3年生は「スライドやレジュメの作成など事前準備から当日の司会・進行まで、報告会に向けての努力がすばらしかった。4年生になったとき、同じように後輩に伝えられるよう、改めて意識を高くして学習していこうと思った」という。昨年は3・4年生だけの参加だったが、本年は2年生も参加できるようになり、出席者より好評を得た。

接その手法を学び、地域福祉への関心を高めている。その経験を生かし、卒業研究や就職活動にも取り組んでいる。

また、活動が続けるなかで、子ども

らゆる世代と立場の人が地域福祉を考える出会いの場、人とのつながりができます。自分の仕事でも地域福祉を意識するきっかけになり、今の自分ができることを探すよい機会になりました」と話し、向学意欲の高い現場の諸先輩や住民の方々から刺激を受けたようだ。またゼミの学生は、テキストだけでは学べない先駆的な実践に取り組む人から直

接その手法を学び、地域福祉への関心を高めている。その経験を生かし、卒業研究や就職活動にも取り組んでいる。

また、活動が続けるなかで、子ども

食物栄養学科 今年も2年生も参加 臨地実習報告会が好評

6月5日(土)、4年生による臨地実習(給食運営・経営管理・臨床実習)報告会が開催され、午前は3・4年生227人、午後は2・4年生200人が参加した。



小学2年生の算数の授業に取り組み長尾富士子さん。

児童幼児教育学科 児童教育専攻 57人が教育実習を修了 現場で実践力を伸ばす

児童教育専攻では5月から7月にかけて、新座市の小学校を中心に4年生57人が教育実習に取り組んだ。これまで大学やボランティア活動などで培ってきた実践的指導力を、小学校の現場でさらに磨くよい機会となった。学生たちは持ち前の明るさを生かし、期待どおりに力を発揮。実習先の小学校からはとても高い評価をいただいた。

実習を終えた長尾富士子さんは「2年生のクラスで4週間、30人の素直な子どもたちと楽しく過ごすことができました。児童たちにはそれぞれさまざまな事情や課題がある中で、どのようにかかわるかなど多くの学びがありました」と話している。

人間福祉学科 さまざまな人が集い 地域福祉の知見を共有

今年で5年目を迎える「埼玉県福祉でまちづくり研究会」では、県内のさまざまな専門家と実践者が集い、地域で自立生活を支援する方法と仕組みについて学び合っている。7月には、埼玉県福祉政策課の事業「地域支え合いの仕組みについて」の担当職員が報告を行った。

本学からは佐藤ゼミの学生や卒業生を含め、25人が参加。ケアマネジャーとNPOの職員である卒業生の2人は「さまざまな地域のあ

コミュニケーション学部 現代社会コース 「イクメン」の体験に触れ 育児のありかたを見直す

改正育児休業法が施行される前夜の6月29日(火)、東京・三田にある「女性と仕事の未来館」でNPO法人ファザーリング・ジャパン主催の「さんぎゅーババシンプジウム」が開かれた。現代社会コースのフィールドスタディ(体験型演習「男女共同参画社会」)担当・大友由紀子准教授(以下、最近注目されている育児に積極的にかわる父親「イクメン」)の体験を知るため、このシンポジウムに参加した。

育児休暇を取得したイクメンたちは、「なぜこんなに楽しいのだろう」と、中の男性は参加しないだろう」と、異口同音に育児のすばらしさを語っていた。復職後は、職場の育児支援体制づくりに取り組む男性もいた。

育児は女性のみが担わず、男性も含めた社会全体で取り組むことが、女性のワークライフバランスを保つうえでも非常に重要であると実感した。

(1年 植竹 恵美香)



現代社会コースの学生たちが歩いている写真

児童幼児教育学科 幼児教育専攻 実習を通じて深まる 学生と教員の絆

スタッフが新たなメンバーに変わり、今年で二度目の夏を迎えた実習指導室。学生たちの成長を実感することが私たちスタッフ3人(長年保育現場で活躍されてきた小池イヨ子先生、金子千代先生、筆者鈴木晴子)の楽しみである。毎日たくさんの子が来室するが、学生目線から見た実習指導室について、3年生10人に突撃インタビューを行うと、次のような意見が返ってきた。

「実習指導室には、先輩が書き残してくれた実習園の資料が置いてあり、園の様子を把握することができるので、実習に向けて不安だけではなく楽しみも感じられるようになった」

「先生方に質問すると、私たちの気持ちや理解したうえで、わかりやすく答えてくれる」

「実習指導室に入る前はとても緊張するが、退室した後は安心感で気分は爽快になる」

「何でも相談しに行けて、学生にとって心の支えになるのが実習指導室。先生は私たちのために環境を整えてくれたと思う」

実習直前の緊張感のなか、本当にありがたい。(助手 鈴木晴子記)

短期大学部文学科 国語国文専攻 多彩な課外授業を実施

猛暑の夏も、元気いっぱいいる学生たちはさまざまな活動を楽しみ、勉学に励んだ。

6月には、女性講師の日向ひまわり氏による講義入門講座が開催され、迫力のある語りの世界に、あつという間に引き込まれた。日向氏のご指導のもと、学生たちも「平家物語」の講義に挑戦。1年生の楓山さんはポップ風に、八久保さんは口ツク風に語り、「大きな声を出すと楽しい!」と話していた。

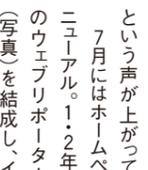
また声優の専門学校を出て、現在セミプロとして活動している卒業生の安川有希さんが、ゲストとして授業に参加してくれた。歌舞伎の演目「うしろ売り」の長台詞を披露し、その滑舌のよさに学生たちはびっくり。

ほかには、加藤先生と清水先生の授業で「宝塚歌劇」を観劇、東先生の授業で「三菱一号館美術館」国際子ども図書館を、赤間先生の授業で「東京国立近代美術館」などを

短期大学部文学科 英語英文専攻 ツイッターやHPで 積極的に情報発信

5月からツイッターによる情報発信を開始した。授業連絡など学生への諸連絡をはじめ、さまざまな行事の感想、教員の個性あふれるコメント、果てはおいしいページル屋についてまで情報満載だ。英語英文専攻で今何が起きているか、ホットな情報を即時に伝えるという目的を果たしている。学生からも「先生のコメントを読むのが楽しみ!」という声が上がっている。

7月にはホームページが大幅にリニューアル。1・2年生からなる9人のウェブリポーターが「チーム@」(写真)を結成し、イベント後記、卒業生や教員への突撃インタビュー記事などを執筆。順次アップしていく予定だ。ツイッターで簡単に紹介した記事も学生が書いていくので、ぜひご覧ください。



ウェブリポーターのチーム@のメンバーの写真



1・2年生が国際子ども図書館前で集まっている写真

◎平成23年度 推薦入試日程

学部・学科(募集定員)			出願期間(郵送:必着)		試験日	合格発表	出願資格
人間生活学部	幼児教育学科	60名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)	高等学校を平成23年3月卒業見込みの女性で、全体の評定平均値3.3以上、専願とする。 【選抜方法】 幼児教育学科 ▶調査書・面接・作文(60分 800字) 児童教育学科、人間発達心理学科、食物栄養学科 ▶調査書・面接・小論文(60分 800字)
		II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)		
	児童教育学科	23名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)	
		II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)		
	人間発達心理学科	30名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)	
		II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)		
	食物栄養学科	40名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)	
人間福祉学科	20名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)		
生活情報学科	30名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)	高等学校を平成23年3月卒業見込みの女性で、専願とする。 【選抜方法】調査書・面接	
	II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)			
メディアコミュニケーション学科	30名	I期	10/26(火)~11/4(木)	11/9(火)	11/12(金)		
	II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)			
短期大学部文学科	国語国文専攻	30名	I期	10/22(金)~10/28(木)	11/3(水)	11/5(金)	高等学校を平成23年3月卒業見込みの女性で、専願とする。 【選抜方法】調査書・面接
	II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)			
英語英文専攻	30名	I期	10/22(金)~10/28(木)	11/3(水)	11/5(金)		
	II期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)			

◎平成23年度 編入学入試日程

学部・学科(募集定員)			出願期間(郵送:必着)		試験日	合格発表	出願資格
社会情報学部	社会情報学科	3年次5名	I期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)	2011年度入学生編入学試験学生募集要項をご確認ください。ホームページでも確認できます。本学募集・入試センターまでお問い合わせください。 【選抜方法】 社会情報学部 ▶小論文(60分・800字)、個人面接、出願書類 人間生活学部: 児童幼児教育学科幼児教育専攻 ▶小論文(60分・800字)、個人面接、出願書類 人間福祉学科(社会福祉コース) ▶小論文(90分・1200字)、個人面接、出願書類 人間発達心理学科 ▶小論文(60分・800字)、英語(60分)、個人面接、出願書類
		II期	3/3(木)~3/14(月)	3/17(木)	3/19(土)		
コミュニケーション学科	3年次5名	I期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)		
	II期	3/3(木)~3/14(月)	3/17(木)	3/19(土)			
人間生活学部	児童幼児教育学科 幼児教育専攻	3年次10名	I期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)	
		II期	3/3(木)~3/14(月)	3/17(木)	3/19(土)		
	人間福祉学科 (社会福祉コース)	3年次5名	I期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)	
II期	3/3(木)~3/14(月)	3/17(木)	3/19(土)				
人間発達心理学科	3年次5名	I期	12/3(金)~12/11(土)	12/16(木)	12/20(月)		

★オープンキャンパス開催時に編入学についての個別相談を行います。相談時に学科の授業内容、単位認定、資格取得、ゼミ等について説明します。編入学を希望する方は、必ず事前にご参加ください。

★人間福祉学科社会福祉コースについては、23年度編入生から社会福祉士国家試験受験資格取得が可能となります。

◎オープンキャンパス

11月28日(日)・12月12日(日)
13:00~16:00

本学に入学を希望する方、興味をお持ちの方、ぜひご参加ください。

内容▶受験生のための在学生によるキャンパスツアー、個別説明・相談等を予定しています。
※AO入試相談・編入学相談も受け付けます。

◎桐華祭・進学相談会

10月23日(土)・24日(日)
10:00~15:00

推薦入試直前の相談会になりますので、ぜひお越しください。

受付▶募集・入試センター窓口

内容▶各学科専攻コースの担当教員による個別説明と相談、募集要項(入学願書)や一般入試過去問題集等の資料配布。カリキュラムや資格のこと、各入試、学生生活全般についての相談も受け付けます。予約不要。
※AO入試相談・編入学相談も受け付けます。

◎AO入試相談会(後期)

2月24日(木)・3月8日(火) 13:00~

AO入試は下記の学科で実施します。AO入試を考えている方、志望する学科の教育に興味・関心のある方のご参加をお待ちしています。

入試形態・実施学科▶

▶対話型

<人間生活学部>

人間福祉学科・生活情報学科・メディアコミュニケーション学科

<短期大学部文学科>

国語国文専攻・英語英文専攻

▶有資格者型

<人間生活学部>

生活情報学科・メディアコミュニケーション学科

▶課題型

<人間生活学部>

幼児教育学科・児童教育学科・人間発達心理学科

2010年度10月~3月の「公開講座」

下記のとおり十文字学園女子大学公開講座を開催します。ふるってご参加ください。
公開講座のお知らせは、本学ホームページにも掲載しています。

▶人間発達心理学科講演会

フランスの乳幼児の発達支援・子育て支援・教育の現在

日時▶10月16日(土)13:00~14:50

講師▶シルヴィ・レイナ氏(パリ13大学教授 兼国立教育研究所主任研究員)

定員▶200名

共催▶日仏教育学会

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

▶桐華祭講演会

ミュージカルの楽しみ方

~「オペラ座の怪人」と「シカゴ」と~

日時▶10月24日(日)14:00~16:00

講師▶渡辺 保氏(演劇評論家/本学客員教授)

定員▶250名

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業



講師の渡辺 保氏

▶コミュニケーション学科公開講座

▶人生、より多く生きる

日時▶11月6日(土)13:00~15:00

講師▶新井晴み氏(女優・画家・エッセイスト)

定員▶200名

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

▶食物栄養学科公開講座

▶高齢者のための調理教室

日時▶12月11日(土)13:00~15:30

講師▶岩本珠美(人間生活学部准教授)

定員▶40名

備考▶[調理実習材料費]500円/[持ち物]エプロン、三角巾、上履き

共催▶十文字学園女子大学「若桐会」食物栄養部会

▶人間福祉学科シンポジウム

▶あらためて高齢者介護とは何か

~これからの10年を展望して~

日時▶12月18日(土)13:30~15:30

シンポジスト▶

小島美里氏(特定非営利活動法人暮らしネット・えん代表理事)、田部井康夫氏(群馬県認知症の人と家族の会代表・デイみさと管理者)、新井幸恵(人間生活学部准教授)

定員▶200名

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

▶十文字学園女子大学女性と情報研究センター・高齢社会生活研究所合同企画

映画「折り梅」にみる老いの幸せ

日時▶11月27日(土)12:55~16:15

鼎談者▶

松本侑子氏(映画評論家/本学非常勤講師)、新井幸恵(人間生活学部准教授)、戸田京子氏(翔洋会 老人保健施設ふきのとう事務長/本学非常勤講師)

定員▶200名

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

▶十文字学園女子大学高齢社会生活研究所主催講演会

「遠野物語」を生み出したもの

日時▶2月5日(土)13:30~15:30

講師▶森尻純夫氏(インド・マンガロール大学客員教授)

定員▶150名

埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

▶子ども大学にいざ(新座市内大学公開講座)

▶十文字で遊ぼう 十文字で学ぼう

子ども音楽鑑賞教室

日時▶12月4日(土)14:00~16:00

講師▶清水玲子(人間生活学部教授)、真園ありす氏(声楽家)

定員▶170名

対象▶小学生/一般

主催▶十文字学園女子大学・新座市教育委員会

企画・運営▶子ども大学にいざ実行委員会

(十文字学園女子大学・埼玉県教育局・新座市教育委員会・NPO法人新座子育てネットワーク)

予約方法/お問い合わせ先

参加ご希望の方は、必ず事前に電話・メール・FAXのいずれかでご予約ください。先

着順で、定員となり次第締め切りとさせていただきます。

▶E-mail・FAXでのお申込み方法

①受講希望の講座名 ②日にち ③氏名(ふりがな) ④電話番号 ⑤講座をお知りになった媒体をご記入の上、ご送信ください。

E-mail: ext@jumonji-u.ac.jp

※「受付完了」の返信メールが届いた時点で受付完了となります。定員超過の場合はご連絡いたします。

FAX: 048-477-0764 (エクステンションセンター直通)

▶電話でのお申込み方法

平日9時~17時、土曜日9時~13時にお電話ください。

TEL: 048-477-0579 (エクステンションセンター直通)

▶子ども大学にいざ(新座市内大学公開講座)

《申込締切》11月12日(金) 必着

※結果は11月26日(金) ごろ通知

《申込方法》はがき、またはFAXで、①講座名「子ども音楽鑑賞教室」②氏名(ふりがな) ③小学校名・学年(小学生の場合のみ記入) ④郵便番号・住所 ⑤電話番号をご記入の上、下記までお申し込みください。
※複数名で申込み場合は、②氏名(ふりがな)、③小学校名・学年のみ全員分を記入してください。
《申込先》新座市教育委員会 生涯学習課 〒352-8623 埼玉県新座市野火止1-1-1 TEL: 048-477-1111 (内線1836)

▶受講料について

全講座無料。
※12月11日「高齢者のための調理教室」では調理実習材料費500円を基金いたします。

▶エクステンションセンター

E-mail: ext@jumonji-u.ac.jp

TEL: 048-477-0579 (直通)

※平日9時~17時、土曜9時~13時

FAX: 048-477-0764